

名古屋
山三郎
不破
伴左衛門

孫本拾遺志
五

3151
5



3151
5

昔話 稻妻表紙卷之四 江戸

山東京傳編

十三 修羅の大鼓

さても銀杏の前ハ山三郎なまひ扶られて生駒山のいぬま林はやしまでおちのびしが
辻堂つじどうまで追手の者もの小捕ことらへられ不破ふは道みち犬いぬが手て小こつりて蜘蛛くも手て方の
深殿ふかどのおくまりたる一間ひつまのうち小押おし籠かごられて日ひのかけがふえること
あつと月つき若わの身みのうへ苦くふあるうへに朝夕あさゆふの食け事じだふ。あつと小
とふさぐれば心こころ気き日ひふおとろへ身み体たい夜よふやせおとろて命いのちも危あやうく
ええあつと。あつとのとろむと。屋や々や蜘蛛くも手て方かたと密ひそ談だんして大殿おほの判はん官くわんの
命いのちとつりつりしてつと人の前まへを引ひいてつと二人ふたりあつと。昼ひる夜よたえぬる。
寤う現げん責せきあつと。月つき若わのゆへ白しろ杖づえせと責せき小こけし。むじんまのいふの

古今圖書集成

前まへハ三日さんびつ之夜のよのうつくせありつづぬをて。おぼえむねづねだうけん及大耳おほいみみのちふ
 大鼓たいこをあはして。ゆづることさぬさせ。あがりのうちもゆづさむと夢幻むげんの
 世よの中ちゆう小鼓ここもえせぬぞ哀あはれある。及大眼だうけんといふし。いふいと人の前まへの月つき
 若わかびのゆへ。あはぬものもあはじ。さしく白しろ状じやうしめさぬ。大殿だいだんの
 炭命たんめいをぬが。さてもづぬぬ処ところを責せめさす。いとの前まへ臉らむおまげ。目めを
 ひらきて苦くるしげふ息いきをつき。かくさす。あは責せめよあひ夜よも昼ひるも
 おもゆえむと夢ゆめり。現うつ寝ねてう醒さめて。うらさるちさぬ。ゆづさむといと
 ちとろ入い我子わがこよも。ありさるあはむ。うくのうちふいそで。いづで
 ほくかゝるなれ。推量おしりやうして。及大とのとぬひつも又ゆづさむ。又大鼓たいこを
 打うて目めとさぬさす。ゆづぬ打うちく。水みづ責せめ火ひ責せめよあふ。うりも。さるま
 まるる責せめ苦くるあは。傍かたわらる。蜘蛛くものこ手て方かた小膝こひざとさるちとちと。いづで

づうふ三日さんびつ三夜さんやの責せめあは。まこと現うつよあはぬ。おぼ。あは責せめをうけん
 といふ。つひ一言ひとこと白しろ状じやうせし。いづつあもいづつ骨ほねとひぎ肉にくとささす。いづ
 さでやあはぬ。いづでいづを答こたへ。とて角つのをぬ夜よ又またのさぬ。して。くひく
 及大形勢おほいさたあり。いづ人の前まへ顔かほをあげ。いづあはぬ。いづも。あはぬ。いづせん
 といふ。只ただいづの片時かたときもさ。殺ころし。あは情あはれをさ。さあむと泣なみあ。紺こん
 青あおの髪かみささぢも。とむら。まふ。とりあは。と。親おやさ。いづ襟えりり。いづ。いづ渡わたの
 白玉しろたまの夷あまの国くにの胸装むねづからと。目前まへる。さして哀あはれあ。いづも。あは。蜘蛛くものこ手て方かた
 声こゑあ。うづげ。あは。あは。あは。女めゆ。さ。さ。も。本ほん性しやうあ。いづ白しろ状じやうせし。いづ。いづも
 手て渡わたり。いづ責せめほ。して現うつの。うちふ。いづ。いづ。及大鼓たいこ打うちく。と下知げちする
 あ。及大か。いづ。いづ。耳みみの。さ。さ。さ。つ。つけて鼓つづみ。こ。お。あ。いづ。いづ。の
 前まへの。才さい小せう。と。いづ。修羅しゆらの大鼓たいこふ。こと。あ。いづ。いづ。及大。及大。地獄ぢやく品しんの

つらなる可責あり。たぐひまされざる責苦あり。かゝる折しも。その次の者
 をせすあり。黒星眼平只今飯国つらなつりおん波ふひくおんやしと
 まちゆとまきとゆれはる大歩団。それいそだらぬへぶとりのまじと
 此とそ退きぬ。ゆとく眼平まうといで椽側小頭とまげてひひる。
 月若どのゆへとたぐひ。おん首おてまわれとのあつせふを所こ
 方とをたぐひゆとあゆうち。註進の者ありて丹波の国穴太の里小住
 六字南无右衛門と中と者かくまひおくと同いじゆゆ急いそまき
 切ひゆ所は彼者のいふして。打手のむらふすと知若君とつれそのれ
 あり。ゆへとあゆむとありゆ。あむ右衛門と中と別人ともむと佐々良三ハ
 郎がとふゆと假首と受けとらじ。おのが越度ハおかじ。まこととや
 小相のぞ。知手方ゆれと同。その残念あり。あつるうへいゆへの前と

せしむも無益とて。かれいこふ殺とらたむがあぬども。畢竟月若の
 ありとをいそさんたるゆへ。今日まともゆけおまぬ。り大殿のふくろと
 て助命ありとあむ。後日のさぬたげあり。そりくかれを殺まぬし。
 月若三八郎がゆへい。あむまじゆへ。たぐひと。たぐひと。たぐひと。たぐひと。
 せんとのこむへ乃たむ。それゆも左を存出さ。かハ片時
 も後豫ハゆへい。幸ひ日もくれあんとゆへ。今宵のゆへい。ゆへい。
 看打ゆへい。ゆへい。眼平。あんちゆへい。の前ゆへい。の乗物小のせ夜まき
 まき。岩倉谷小かきゆへい。ひそくおん首おて来ま。と命ゆへい。ゆへい。
 眼平腹心のまじとゆへい。ゆへい。庭まき。乗物とゆへい。ゆへい。ゆへい。
 まて打伏たる。ゆへい。の前と。情ありもあつるゆへい。ゆへい。ゆへい。ゆへい。
 わげて乗物小へ。ゆへい。ゆへい。ゆへい。ゆへい。ゆへい。ゆへい。ゆへい。ゆへい。

いておの前
 出雲谷に
 ぬいて首を
 うえとむ
 時、何者
 ともし水を
 太刀とりと
 打ころして
 いておの前を
 らびさる



名古岸巻之四

名古岸巻之四



是善人、悪人、よくと敵、味方、何人、とりよ、こと、成、る、と、い、ふ、者、
の、姓、名、成、る、と、要、せ、ば、卷、之、五、の、下、冊、第、十、九、回、と、讀、得、
て、知、る、

十三 霊場の熱鬧

その比、近江の国、石山寺の觀音菩薩、結縁の、な、り、開、帳、の、り、け、が、名、に、
あ、つ、つ、美、場、あ、れ、ば、ろ、ね、な、ま、く、で、來、る、人、士、女、老、少、群、集、し、綿、絡、繹、
と、し、そ、の、ゆ、ら、く、ち、づ、く、も、た、え、ど、誠、是、行、川、の、な、り、の、こ、ま、り、づ、ら、ふ、
似、こ、り、商、人、ど、も、か、ら、あ、ら、ひ、に、兼、び、て、過、分、の、福、と、得、ん、と、俄、に、假、
屋、と、つ、つ、草、津、鞆、守、山、鞆、高、宮、布、長、瀬、糸、大、津、針、高、嶋、硯、武、佐、
墨、水、口、笠、辻、村、の、鍋、の、た、び、ひ、玄、惠、法、印、が、庭、の、訓、ふ、め、ら、る、の、ま、で、お、の、
が、さ、か、く、持、て、ま、び、て、山、の、ご、と、く、つ、ろ、あ、ら、れ、ば、買、人、へ、雲、の、ご、と、く、あ、ら、る、な、

あ、ら、ひ、の、酒、賣、家、あ、ら、ひ、餅、菓、賣、軒、あ、り、惣、所、を、つ、つ、り、茶、と、ひ、と、者、
あ、ら、ひ、小、弓、の、射、場、ま、う、け、て、ど、ち、こ、と、者、あ、り、あ、ら、ひ、長、劍、を、既、て、
茶、と、う、と、今、様、と、う、ひ、て、鐵、と、同、も、ほ、ろ、ろ、片、輪、者、見、も、や、ら、ぬ、
鳥、獸、と、ど、奇、と、あ、や、ま、の、と、る、と、所、幻、戲、鼈、脱、刀、玉、綠、竿、の、た、び、
奇、妙、の、術、を、施、と、所、る、と、処、せ、れ、ま、ぞ、立、る、び、笛、吹、音、鼓、打、声、四、方、お、
ひ、だ、て、お、ぬ、び、と、諸、人、の、耳、目、と、お、ど、ろ、う、む、び、大、路、の、う、ち、み、薦、と、い、れ、
お、け、り、穿、は、く、と、紙、お、と、ら、る、招、牌、お、辻、談、義、露、の、五、郎、兵、衛、尉、と、墨、
く、ろ、み、お、つ、つ、け、て、戸、口、お、け、た、る、あ、り、か、れ、が、い、ふ、と、同、と、そ、人、あ、ら、ひ、は、と、ひ、
居、たり、講、師、た、う、た、床、の、う、み、の、り、書、案、の、う、み、木、の、か、じ、と、お、た、ま、づ、
あ、ら、ひ、を、前、み、た、と、聽、聞、衆、お、む、ひ、ま、は、ら、く、阿、弥、陀、經、を、考、ら、ふ、如、來、
の、五、劫、の、回、思、惟、し、む、ひ、上、の、一、人、を、下、の、婆、々、嫁、々、み、つ、ら、ま、で、残、つ、ら、

くら。頭み花弁をさう一ひじ。邑元結をむきび。髪の中ひぎぬも今
 様ふところのわけて。阿曾比めれたる容小ほくらと床机めくらもめ
 う人み。紅の毛氈もあきて尻うけたる姿。蟬蛸たる牡丹花の咲き
 たるごとくもて。あたりもかやむらうり。とけれど腹手首咽らび
 ちとみ。蛇ぞもいづくともく。まくらひはれかぬくびをせしなて赤き針の
 ずりたる舌を吐いて。目をむちく。うせうらうらさぬ。又もみさるの毛を
 だつたうりまり。見物の諸人何の遠慮もあつたれが。髪をちりくとうち
 まうりら。毒もまくれあつ。娘もみやく。妖蛇ふえるれ。おかし。ひきまき。ま
 あが。どや。かろあまほ。まき。おちり。みたを。それか。ゆう人集て。え。え
 こ。こ。の。女の。い。ふ。び。と。や。ろ。つ。ん。あ。ふ。不。便。の。こ。と。と。つ。の。傍。の。人。の
 り。つ。ん。い。あ。く。の。れ。が。親。り。え。と。と。と。て。非。義。非。道。を。か。こ。あ。ひ。つ。る。悪。人

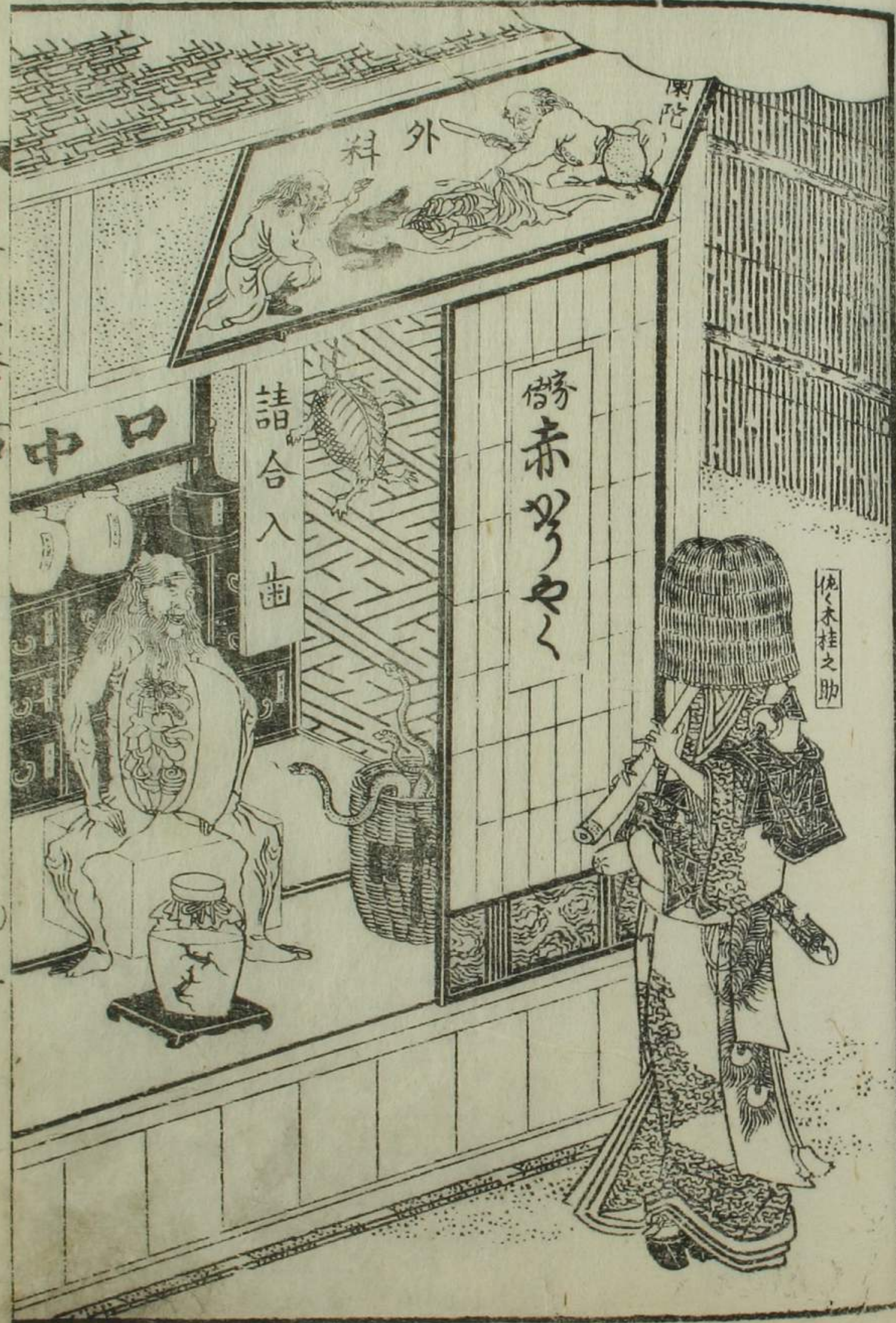
あがめ。それゆゑに親の因果の子ふむ。ゆて。ゆ。あまほ。き。ま。さ。り
 ほ。め。さ。る。あ。つ。た。者。の。う。み。け。ほ。つ。子。あ。れ。が。ゆ。れ。も。又。姿。と。さ。う。り
 けれ。志。い。き。を。ゆ。ぐ。は。ら。め。毒。の。人。の。よ。き。戒。め。ぞ。ゆ。う。人。が。ふ。面。さ。は。り
 い。ゆ。り。そ。ゆ。ま。が。罪。科。の。ま。え。う。と。ろ。う。ま。が。あ。り。憐。し。ぶ。に。み。あ。む。ど。人
 く。く。く。と。や。り。ぬ。か。ど。口。ぐ。ふ。り。つ。と。閉。つ。人。ぐ。ふ。親。ま。り。う。楓。が
 苦。さ。さ。い。う。む。り。あ。ん。さ。う。と。ろ。う。ま。が。抑。石。山。寺。ハ。石。光。山。三。号。し。天。平
 勝。宝。六。年。の。草。創。あり。聖。武。天。皇。の。朝。僧。正。良。辨。如。意。輪。觀。自
 在。丈。六。の。尊。像。を。安。置。む。一。十。有。餘。年。を。経。た。る。灵。場。あ。つ。後。
 連。峯。峩。こ。う。て。岩。間。笠。取。醒。醐。子。ほ。ら。あり。前。ハ。勢。田。川。の。あ。れ
 水。跡。こ。う。て。湖。水。ふ。ほ。ぐ。け。ふ。此。地。の。月。を。賞。し。て。近。江。八。景。の。一。勝。と
 せ。る。も。う。ぶ。あり。扱。は。法。寺。の。門。前。ふ。び。りの。浪。人。深。編。笠。ふ。面。を。か。し。



舞の文の職人なり

小鼓を打つ。月あけはる。小倉山その名の如く。けりけり。これを舞く。のらひとらひ物。をささる。往來ある人のうち。年のころ。あひ十六七。おぼろ。容兒。とて。娘。田舎。深。とて。あられど。紅のこもれ。梅の小枝。小春霞。立田の山の。鴛。とて。ふ文字。とて。標。ふと。あつたる。木綿の振袖。着て。おと。め。の。げ。禪衣。かけ。手覆。脛。中草。鞋を穿。菅の小笠。と。た。り。ま。へ。て。巡礼の道者。と。あ。え。たる。女の浪人の。傍。あ。ち。ら。づ。き。初。も。ま。わ。り。し。た。鼓の音。ど。と。つ。ひ。つ。ま。わ。り。た。り。な。り。な。り。浪人。編笠。お。ぶ。く。ふ。女。と。は。い。く。え。て。さ。も。も。い。ふ。し。さ。さ。あ。こ。の。お。き。時。出雲の国。大社の社家。み。養子。に。は。い。り。たる。八重垣。あ。の。あ。ぢ。や。と。い。ふ。の。女。を。ね。と。同。お。お。ろ。さ。さ。る。あ。て。ま。が。り。答。も。せ。じ。ど。只。お。ま。り。り。て。居。る。浪人。ふ。ら。び。ひ。め。け。ん。か。く。雲。落。し。て。む。り。ふ。か。つ。る。

次女あねが。り。あ。ち。も。理。る。り。と。て。声。と。ひ。を。め。それ。じ。の。お。ろ。と。が。兄。長。谷。部。雲。六。る。ら。と。り。あ。ぢ。女。ハ。益。お。ど。ろ。さ。た。る。体。ら。り。り。り。あ。ぢ。雲。六。女。と。の。あ。ぢ。ふ。ら。び。ひ。め。け。ん。か。く。雲。落。し。て。む。り。ふ。か。つ。る。画。を。あ。ぢ。か。し。お。こ。の。何。ゆ。え。か。つ。る。次。女。と。あり。具。せ。る。人。も。あ。く。若。こ。女の。あ。ぢ。た。び。ひ。り。は。辺。あ。の。来。り。じ。ど。と。あ。ぢ。て。女。を。の。兄。う。あ。て。あ。ぢ。け。り。の。と。と。て。涙。は。し。ぬ。さ。さ。る。と。や。ら。の。算。あ。ぢ。ふ。ら。り。あ。ぢ。て。ひ。し。ふ。け。か。た。り。ぬ。る。人。ト。の。め。と。い。ひ。の。ま。と。と。ふ。え。通。一。の。う。ら。ひ。あり。と。て。妻。が。薄。命。と。同。て。な。る。養。家。の。父。母。は。春。づ。く。一。月。の。間。あ。ぢ。づ。さ。て。あ。ぢ。ま。り。り。あ。ぢ。ひ。妻。ひ。と。と。あ。ぢ。の。と。と。し。が。養。父。の。弟。あ。ぢ。て。妻。が。な。あ。ぢ。伯。父。あ。ぢ。人。養。父。の。遺。財。を。奪。え。ん。た。く。あ。ぢ。情。あ。ぢ。も。妻。と。あ。ぢ。あ。ぢ。あ。ぢ。せん。と。と。あ。ぢ。は。う。け。兄。う。あ。ぢ。の。あ。ぢ。を。の。う。を。た。の。り。と。



名古屋山三

十

時ふかの男棒をひきとちうけこそ平伏し土小頼とさるははて恭く
 のひけへ某察しきふ君の佐木若殿挂之助国知公ふくさひはし
 実とおんあしむいれしと相のつる虚无僧頭を打ちり。ふあひうけさる
 変と同りのうき某の一所不任の修行者あて。もとより卑賤の者あり
 ぬれども人たふしあふまといふの者あていさく。毒を志のふおんあ
 るれば容易小実とおしむのぬも埋ちり。先ちがれが身のうちで前ふ
 北はまこえまふん。それちうぬいおん家士名護屋山三郎が僕麻呂
 ちやと者の守様二郎とて若あてぬぬの兄さふ山三郎小ほく
 ちうぬじが。ちうぬいおんあていさく。毒を志のふおんあ
 うちまらま三郎左衛門不破伴左衛門が為小園打ふあひ山三郎の平
 郡の館の騷動おほれて。ちうぬぬが住家おちまふ。ふあ君のあて

へとたづねて安否とさひをより。二つあ伴左衛門をたづね出て父の仇を
 ひくんと。我く小命とて所、方々をたづねり。このころ山三郎麻呂と
 て西国小様まふりぬ。ちうぬぬの露の五郎を店と名を更じ談義ふこととせ
 京大坂へちまふ。ちうぬぬが所、人立おちぬに処にひたりて。専尋ねぬらぬ。ちうぬぬ
 唯今君おめぐりのあひをさる。我く主従が一念さきし所、女あつぬ時ちうぬぬ
 某等がごとけ賤をさる。おん姿と拜し。ちうぬぬのこともあつぬ。ちうぬぬの面
 謁はちうぬぬの物体あることとひて。実心面おのられぬ。虚无僧あつぬか
 ばれさる。誠心を同くし何をさる。むべに汝が推量ふたがど我へ挂之助
 汝が面へえさる。ちうぬぬも山三郎があつぬ。麻呂猿次郎とて兩人あつぬ
 ちうぬぬより同やびぬ。このころちうぬぬが猿次郎とて買加あつぬ。ちうぬぬの
 ちうぬぬがふあつぬ。不破ちうぬぬが悪意奥方若君のちうぬぬのちうぬぬ

ちんちん。さめく。やあど。い夏あれども。途中。おへさ。こえ。び。お捕手の
 奴原人数とま。てあ。び。ら。ふ。ま。ん。ハ。必。定。有。れ。ば。そ。ろ。く。ん。を
 ぬ。し。あ。べ。し。也。おの。奴原。ま。り。ひ。つ。や。あ。り。ぐ。を。ひ。ひ。せ。そ。耳。つ。つ。て
 さ。め。さ。ぬ。さ。て。さ。う。む。ひ。の。方。お。家。あ。り。あ。り。障。子。み。子。相。傳。名。方。赤
 膏。菜。と。筆。ぞ。お。め。つ。け。た。と。門。口。ふ。た。て。外。の。か。ふ。あ。ぬ。の。菜。名。を
 あ。う。た。る。招。牌。と。つ。け。あ。る。べ。し。あ。く。の。奇。病。の。さ。ぬ。解。體。の。置。ち。と。か。ら。
 こ。れ。ぐ。も。か。け。ひ。な。ら。い。外。療。の。菜。と。ひ。き。く。家。あ。り。け。は。核。二。郎。指。は。て
 け。そ。や。り。が。れ。旅。宿。ま。て。は。幸。あ。じ。ハ。京。上。り。て。家。お。と。も。只。龍。の。老。僕
 あ。の。た。れ。く。め。若。も。ぬ。つ。ど。と。桂。之。助。と。い。ご。あ。ひ。て。おの。家。お。い。て
 裏。お。入。り。て。あ。る。と。障。子。と。め。の。ご。く。引。た。て。声。と。る。さ。ど。て。居。こ。う。と
 け。り。は。時。已。お。日。ハ。れ。果。て。夕。月。夜。の。光。の。の。た。り。り。り。果。し。て

捕手の者ども人数とま。てあ。り。て。は。家。と。り。か。さ。ん。声。た。や。ふ。ら。り。ひ
 け。い。さ。さ。や。ど。は。家。お。か。れ。た。る。虚。无。僧。の。佐。木。桂。之。助。国。知。ふ。う。こ。ひ。は。
 い。ふ。国。知。あ。ん。ぢ。官。領。職。濱。名。殿。の。内。意。あ。り。勘。当。う。け。た。る。ま。と。遣。根
 お。ひ。も。そ。ふ。野。依。浪。人。ご。も。と。め。ひ。濱。名。ご。の。敵。せん。と。さ。る。は。註。進。の
 者。あ。り。て。さ。さ。し。ち。さ。れ。め。あ。り。て。さ。さ。と。と。敵。命。と。や。う。り。て。我。軍
 を。せ。ひ。つ。つ。あ。り。の。め。れ。ぬ。所。ぞ。さ。う。お。出。き。う。ら。て。ぬ。や。と。う。け。て。あ。り。て
 手。む。ひ。で。奴。も。あ。ん。ぢ。お。一。味。の。者。あ。ん。ぢ。の。奴。も。さ。く。く。と。い。ひ。て
 首。ひ。き。ぬ。さ。て。お。ひ。き。せ。ん。び。ら。と。口。お。の。猛。く。の。ま。れ。ご。も。猿。二。郎。が。さ。れ
 や。ら。の。手。あ。つ。ふ。お。さ。ね。て。内。お。さ。さ。い。ん。ぢ。る。者。の。独。も。ち。う。く。只。さ。つ。が。い。て
 の。と。ち。り。け。り。時。あ。る。と。障。子。み。人。影。う。つ。り。桂。之。助。の。声。と。て。い。ふ。あ。ん。ぢ
 ら。ま。が。ま。り。て。我。り。あ。り。と。因。我。耻。と。ま。の。び。て。今。日。ま。で。い。さ。あ。ん。ぢ。二。所。不。住

谷古屋巻之四

七二

ふさぬふひつるが。そくも武運ぶくわん小尽つとなるが。あつたべあつたべ所ところふおとてししんんいいまま。
 腹はらわさやぐりて相果あひさうるぞじ。いざ首くびとさうて高名かうなふせよ者ものさむとさうり
 けるが。やぐて障子まやじのささぬふと。鮮血せんけつさうてさぐれりぞぬ捕手とらての者ものけれ
 ささふ首くびさうて貴銀きぎんふめぐりんと。遅速ちそくとあつそひ障子まやじとあつたうて
 内うちとるねば。いふ桂けい之助のすけあひあひて正面まへの胡床こしどのうふ。人の長ひとたけやど
 小ほくそ五臓六腑ござうろくぷといろざうなる。神農しんのうの胴人形どうにがた右みぎふ茶匙ちやくしと持もち左ひだりふ茶ち
 草くさとさうたるとささぬふ障子まやじのひぬより血ちのささぬふ赤膏あかかう茶ちみ
 ぞありける。あ者ものさむとれとさて只ただあさぬて酒さけ小解あひなるさしけるが。さそい
 欺あざむめれたるう口くちゆささ。さうあても今の声こゑ桂けい之助のすけふまざれば。がさふあつれ
 たうふうこびひる。と奥おくの二回にかいと目めがけて走りはしりふんとしゆれ。誤あやまりて傍そばふ
 ありける。筑籬ささきとささぬふ。たやけは。たちまち数多あまの蛇へびのさう出ていつれさ

手脚てあしふまさひつるが。あそお驚おどろてさうささたち。又また誤あやまりて膏茶鍋かうちかと
 ふみわしければ。膏茶足かうちあしのうふねづりつとてえさぬと蛇へびの手てさ
 膏茶かうちの足あしあせられと。のぞつんとささぬ。あれふまづつれ。わどく進すす
 退ひきを失しひて。只ただ騒動さわどうさるのさうりけり。時分ときぶんは。猿さる二郎にらうなとれひささぬひ。
 めさそめがてオおつふ打扮うちばん明晃めいこうなる大太刀おほたちと抜ぬりちて一間ひまのうち
 へさささうり出いで。斬きふさうりたる。さみみく大おほ狼狽ろうた一人ひとりと
 して敵たまる者ものああるとけり。あの大太刀おほたちのり居合おあひの刃引やいばひき大太刀おほたちあつれば。
 さうつけられさる痕あと。蚯蚓こうちんのごとく。ちれあがるのさあて。一命いちめい小恙せうしやうへは
 さうでも。さうく魂たまひを奪うばれて。さうまもく。臆おそなる者ものさもさるね。
 糍もちふ粘ねたる蠅へんのごとく。たわれ。ささふ起おこも得えび。手てとさり足あしを
 さうてくちくふ。さうさむとあつびつ。さうらじそ起おこりけるが。疵持きずもち

足の膏薬引もどらうらちしそ。さけりまうびつ迹由にけり。
 猿二郎の太刀をさそ。打笑さても臆病なる奴原うま。因早娘の
 蛇どもが。ふひもわけど用立へ。禍の三年めもゆひつべし。ひと
 ぞちて。蛇どもともとの筑籬。あうちわれ一間のうちより桂之助と
 ともちひ出かきと殺しゆて。あつて後日のさぬたげふゆべ。ワざと
 刃引太刀ともちひて地獄へ。はらうらひさるふ不破。及大君と笑ひ
 せんとさうりて。官領の命こつり。君のおん心みおぢえさ。またを
 やしたて。捕手とむけさる疑は。大切のおん身あゆむ。あざむも
 かりじ。出あまたあざむも。あつて一度えおぢえたるは家小忍を
 中と危け。今宵のうち別所小御座とらうらま。ん。いざうせ
 むと催して。つひふ兩人のいでゆけり。

○徒然草。ふめなるもの。蛇小されたるふ。蛇はしと記すと。あつても。
 いざうらうらうら。蛇小のむらさ。あつて串柿の肉を粘飯のごとく。わら
 て。はらうらあつても。あつて。度く。さうら。はらう。一度もあつても。あつても。
 あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。
 話小は。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。
 筆のついで。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。

古 仇 家 の 恩 人

爰小又湯淺又平といふ。戸佐正見といふ名画人の弟子。あつても。そのあつても。画
 道小糸乃たりといふ。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。
 と筆のあつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。
 姉藤波白拍子とさうりて。兄とさうら。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。
 まま。困窮。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。あつても。

て近江の国おろしふらつり大津走井おろしのわらり小住繪おろしをわらして往來の旅人
 小住繪とひきく。妹が菩提いせのわらもとらふらうらうら多分たぶん佛像と画
 十三じゅうさん仏地藏菩薩だいちざうのたぐひあり。そのころハ民百姓の家ハ木仏きぶつなれ
 みて。おろしハ又平が仏繪ぶつえともて。持仏の本尊ぢぶつあけらうら。仏繪の
 小あぶど。浮世うきよの人物じんぶつきんぐのざれ繪えともひきけるゆき。浮世又平大津又
 平へいともいひ。つれ又生つともて吃塞くつさくあてありけら。吃塞くつさくの又平ともいひ。
 その繪と大津繪おおつとも追分おひわけ繪ともいひて時の人童とこあぶらのめづらふ。や
 かに。又平が妻の名と小枝こえだといひ。藤波ふじなみが次の妹阿竜ありゅうも。今ハ兄
 又平またへい小養こやうとて小ありて。ひとり小住ハ藤波ふじなみの前まへつ年とし佐良三ハ郎ざらさんが
 為小罪なせあしして殺ころされたま。又平何またへいとて三ハ郎さんと一太刀恨ひとたちて妹いせ修羅しゆら
 の宿恨まやかんをまじしほらさんと日ひ来きらうらわらうら。三ハ郎さん出奔しゅつほんのち

弗ふあくくちれがら。むちく月日つきひとぶらうら。初はつめる年としの春はる菱浪あやなみが
 祥月命さむらい日ひあわらうら。日妻ひつま小枝こえだ妹阿竜ありゅうがまらふら。縣かた神子かみこと
 やら。菱浪あやなみが口とて。冥途みやうとのおとつとて。あまて降くだり巫上むかみ坐ま小居こゑあり
 て目めら人の人ひとあや目下めさ。生うら口とたぐら。小枝こえだともいひて。目下めさの
 者ものあて死し口くちあうとて。櫛かみの葉はあて水みづひけら。巫むハこやら。あまらうと
 ともいひ。弦つるを打うちあして。且かつ神保かみかみともいひ。あまらうら
 支しはして敬うやまつてまじしを。上かみハ梵天ぼんてん帝てん釈しやく四大天王しだいてんわう下したハ閻魔えんま法王ほふわう。
 五道ごだう冥官みやうくわん天てんの神かみ地ちの神かみ家の内うちハ井いの神かみ。電でんの神かみ伊勢いせ力の国くに
 天照あまてらす皇みかど大神おほがみ宮みや外そと宮みやハ四十しじゅう未み社やしろ内うち宮みやハ八十はちじゅう未み社やしろの宮みや
 風かぜの宮みや月つき讀よみ日ひ讀よみの御神みかみ当国あたりのくにの靈たま社やしろハ坂本さかもと山王さんわう大權たいけん現げん騰たう吹ふ
 神かみ社やしろ多賀たが明あき神かみ竹生たけなま島しま辨才べんさい天てん築つく摩ま明あき神かみ田村たむらの社やしろ日本にっぽん六十むそ

餘州とてへの神の政所出雲の国の大社神の数九万八千七社の
 御神仏の数一萬三千四箇の靈場冥道とらるし此小降尊
 かまれあやむ時ふらうがのころ心残りちうくさうしてたぐや粹の神
 うりやかの諸精靈弓と箭のほぐひの親一郎ぶのより三郎ぶの人も
 かりと水もかりれかりぬもの五尺の弓一歩うてまきぐの仏壇み
 ひぐくりて

様の弓ふひゆれくそ。波浪があらたなるすてまうて来たつぐや。まろじ
 マ〜水き向てわりりしぞ。主君とくせりたぐや。おまゆも公女枕がひとも
 むひ〜が。烏帽子宝と産をりて。唐の鏡とかがぐとてん才考あも
 安堵させ。たの〜れ〜とさせんと。むひ〜も左り繩田ひがひもあさ
 妻が才の〜人。露をりも罪あうて。邪見の刃ふ才とやうと。つ〜ね恨

の悪念がふ才を焦きと火とあり。おまゆあひの冥道ふ。今ふ迷て居る〜と
 哀ふひひけれぬ。小枝泣声あて。うらまぬもこころぞ。冥途の苦患さへじと
 るひ〜と〜と〜。胸あざう。心も消るるひ〜と〜と〜ひてあさげの阿菴い
 うしろふ打伏て涙ふゆやぶらう〜と。巫あさひひひける。地獄のうちのおまゆ
 さ〜と〜てた〜妻が〜と〜。みふかりて死〜たるもの。か山地獄とて。垂氷以
 さ〜ぬふ植たる〜と〜。剣の山と。牛頭馬頭の鬼どもが。さ〜がひの。答口と
 あげて追たつ〜ふ罪人のせんさ〜と〜。あ〜けびつ〜と〜。おまゆさ〜と〜
 苦しむ〜妻も日〜ふ〜の苦〜と〜。あ〜の火の車ふの〜と〜。黒闇
 道と〜時〜あり。あ〜の血の池ふひ〜と〜。火の雨ふ才を焦〜と〜時〜あり。
 紅蓮大紅蓮の氷ふ〜と〜。叫喚大叫喚の炎ふ〜と〜。品〜と〜
 地獄のさ〜と〜。詞ふの〜と〜。責の苦〜と〜。ち〜も唯志と〜と〜

名古屋卷之四

十七



名古屋卷之四

廿九



藤波ヶしび
うかしやうの
亡魂梓の
引小
ひくれ
来る

名古屋卷之四

廿九

殿のぢんまぢらう〜くひひらぐら。おん身ら法夫婦妹をじこひひらぐら。又平
 目とらりあめ。さげば同ちど不便あり。まがら我とえつぐと。千幸
 万苦のともうちふ。なめく少一の福と得て。おひあやう殿おめど。その
 身の出世とあぶ間もあく。不慮の枉死とあう。た日心の残るも理とあて
 敵とたづねいづ。仇とむいて修羅の宿恨をそとげけいづ。く〜
 仏果を得て悪趣とまぬぬれよとて念珠とらちじ。南无阿弥陀仏のま
 仏と。とらう声も吃塞言ハ。いさ哀とぞまきりける。巫又いひける。このあて
 こそ我才少の讀経おまきる功德うれ。いへのお情ハ仇とむいてたび
 あへ情るいへことまて手向たぬりし飯菜も。みされ鳥おきぬたげ。二
 妻がもとふとらうま。飢ふたぎる餓鬼の飯。炎とらうて消失ぬぬぐ
 いみされ鳥とよけてたべ。ぐらぬぐたのりづるどじ。あき名残と〜詰りたき

ことひひた〜こと。数あ〜あうて尽ぬぬも。黄泉の使あげぬべたやい〜なりと
 ぞと。いひおりて巫ハ目とひらぬ痺と抚て居たりけり。又平米錢とらうて
 与へとの旁を謝しけいづ。巫ハこれとらうけとまら。われと告てまらうりいづら
 ち小枝ハ。今宵の仏子供びんと高木へ餅買おま出さば。阿菴ハる〜とこ
 ぬぐい。このひもふ香と盛て手向やと奥おつて。又平独らふのらう。手と
 らぬぬれたて居たりける。頃も弥生のおもらあて。堅田おつる雁金も。
 ころぢお飯る時らふ。比良の高嶺の雪おろし。餘寒をま〜て肌さゆ。
 瀬田おつてあ〜日のかげも。西方浄土とらうら。幸崎の松風も。常樂我
 浄とら〜とらうり。栗津の嵐を世の中の。生者必滅と觀どぬぬ。天早
 瀬の船も人の身の。會者定離とらうら。石山の月三井の鐘。生
 死長夜の夢の世と。悟とらう外の方ふ。鉦の音念仏の声。い〜も

二字ありとるゆべ。こどもも又ふかりて亡く女あり。それだけ六年以前
 藤波を殺せしも。同年同月同日なる。廣く世界といひあつて似たる
 こどもあるものゆゑ。いふゆゑに長祿二年の今月今日ハ女の又ふかり日ぞ。
 ハ女子もいふる因果少く。剣難死せしと。藤波がまゐひ合せて涙を
 おこつ。まづく回向して居りけり。又平が妹於亀朽木塗盆小日野
 梳とて持して。藤林の斎とていひつ。修行者の教とてつく
 打ちり。まづく佐々良三郎ふあぶとといひて。おぼえど手小持たる物
 を地上ふとて取かすと。修行者いづら。まづく何人ぞ又忘れ
 たりといふ。於亀泣声あて又忘れ。いふもいふも。毒ハあつて
 殺されたる。波浪が妹亀といふものあり。その時妻ハ十三才京都佐々木
 の旅館に寝間不通ふ廊架少て。手燭の光りお教又合せたり。ふ又とけ

たる三ハ郎刀の鉾打お手燭とておぼえとて。逃去たるおぼくわらん。
 折しも風雨をげして。庭木の花も風前の灯火とてえたる。姉の敵覚
 悟せしと。いふゆゑ。またわざり屏風のゆびお様子とていふ。浮世又
 平。カと技てまづり出。ものともいふと。斬はくゆべ。修行者手をゆる
 あつりふありゆふ机とて。丁とてゆべ。血ふされたる。青黄赤白の繪
 の具。四方ふまつて飛散て。秋の花野お異なる。又まづりつと。うけ
 て。いふも某が実の姓名ハ佐々良三郎。今の名ハ六字南无右衛門とて。
 波浪といふ女と殺せし。まづおぼえあり。さりたる。委細のゆゑとゆべ。
 まづく待ありゆと。又平耳中も同入。頭とあり。執りてみて。ど
 ろりつけぬ。あむ右衛門錫杖とて。うけつ。あまじつ。立まらり。子細といふ
 ね。いふもいふも。いふもいふも。まづりつと。うけり。又平ハ吃寒言や。

うふ心せげば。ものゝけとあつらふ。唯口小指さして氣といつて傍ら
 於竜を以て丹とさきたる血と筆ととりて与つた。又平らむとさる。机の
 上ふものゆつと。あむ右衛門読らざらん。ちんぢ六年以前長谷部雲六と
 せんり者といひ合せ佐々木の家宝百蟹の絵巻物と奪取。よの
 むらど。菖浪を害して逃またる大罪人。いそぎのきき及あん。それけし則
 是菖浪が兄。湯浅又平といふ者あり。汝と打て妹が冥途の病恨とを
 せん之日来心ゆけたしども弗ふやうあれげぬ。山ほく月日と地りつ
 小。今月今日妹が祥月命日ふらぐらめひら因果のりらる車の輪妹が
 び、所あらべ。枕豫せよ。此奥あり。觀面の悪報妹の敵のりらる所を
 ちや勝負と決せよと昏かり。うらび刀とさるゆして只一歩とさるつ
 じ。あむ右衛門ちかむらとらぐらぬ。それげぬ。のりらる子細と一

通りらうて。ちかむらけらあしつあ。ひけり。かる折しも又平が妻
 小枝。餅をもちめて立ちつり。何支やんと志げく。門ふたぶとて内の様子
 とうかひけが。又平のえやまらあつと。いそぎく声ゆけて走り入夫
 の手ふまがりて押さる。かひておんおふものゆら。いそぎらりあひて
 大恩とあむらんと日来心ふ忘れざる恩人の則はあんさあておのどあり
 といふあぞ。又平大ふやどらた。切あうとさあつとて手とさるてぞ坐
 居る。あむ右衛門らぶう。小枝がゆらとつ。く。それば。いそぎあえあ
 あり女あり。小枝はあむ右衛門が前お恭しく手とほさ。さてもさひうけ
 じ。うらびあむ目おめらうれ。さ。妻とら六年以前。あむらも今月
 今夜京北山の杉坂めて首盗て死るんとせと。金二十両なぬり。危き一命
 とさむら。それその女あて。則こさる。又平が妻小枝とやとものあてぬ。



石上屋巻之四

七四



石上屋巻之四

十三

その時の大恩。骨子鑄心小銘。して片持もつとれど。ひと小命の
 父母と存。何とぞ再おん目おかし。露をうりも。洪恩と報。とて人
 ども。その時の只おん形とえおえたるのこそ。姓名とあり。わいざし。バ
 かりるおん方も。あふむ。たづみ。やと。づれ。まふも。あつね。む。う。く。これ
 まど。おる。ゆ。を。い。げ。あ。む。右。馬。門。さ。い。の。時。の。婦。人。を。ゆ。ふ。ひ。う。け。が。ら
 再会小恙。つた。体。と。る。そ。ま。ひ。ふ。た。ふ。ど。と。い。か。又。平。へ。は。時。や。り。く。心。地。ち
 つれ。う。ね。げ。の。の。つ。あ。り。も。常。の。ご。と。く。あ。む。右。馬。門。小。ひ。ひ。詞。と。あ。つ。た。あ
 て。い。ひ。け。ら。い。某。の。ひ。て。妻。小。金。子。と。な。り。危。さ。一。命。と。ま。ひ。ひ。ご。さ。れ
 恩人と慕。つ。ふ。おん。身。を。て。あ。ん。の。禁。み。も。か。み。ん。ざ。り。に。某。の。の。都
 北山小住。一。ろ。ろ。殊。外。困。窮。一。る。ま。一。母。親。と。養。育。の。為。せん。と。て。あ。り
 先祖より傳來の巨勢の金岡が画たる。陸奥武隈の松の絵と質入

せう。つ。妹。波。浪。の。ま。と。同。て。氣。の。毒。み。ひ。う。け。め。と。せ。そ。て。金。二十。兩。合。り
 くの。い。う。夜。妻。小。命。と。て。絵。と。う。け。め。ど。し。お。は。ら。け。り。途。中。で。盗
 人。小。金。子。と。奪。ふ。と。妹。の。手。前。面。目。り。そ。て。杉。坂。を。て。盗。死。人。と。せ。し。と。
 之。身。詞。と。尽。一。理。と。の。べ。て。二十。兩。の。金。と。め。と。た。な。つ。て。一。命。と。救。ひ
 ぐ。と。れ。殊。小。後。日。お。恩。と。さ。な。つ。と。て。姓。名。と。告。む。り。と。は。方。の。名。と。も
 同。あ。は。ら。し。の。夜。妻。た。ち。小。命。の。絵。と。う。け。め。じ。家。小。飯。り。と。つ。お
 さ。ふ。の。の。が。う。り。ゆ。ゆ。急。さ。い。さ。い。り。悲。深。人。も。あ。る。の。と。感。致
 今。お。い。ら。す。を。夫。婦。折。り。の。ま。と。の。ま。と。の。ま。と。の。感。じ。と。さ。す
 た。え。と。づ。む。お。ん。身。を。い。り。悲。深。人。を。あ。て。あ。さ。ら。り。何。と。て。殊。夜
 浪。と。殺。し。百。蟹。の。巻。物。と。奪。と。ら。た。づ。ひ。の。非。道。と。お。こ。ま。ひ。し。い。や
 ぞ。お。放。て。る。人。か。お。ん。身。の。心。底。善。悪。分。明。あ。ら。む。と。妹。が。仇。と。報。ん。と

深く父の汚名とてつゝかん。又世物芝居小舟と賣て金とつゝのへ。この
 巻物と買とりたる。夏月若小妻磯菜とつけて河内の国某の寺小舟の
 づせおれ。おのれ、回国の修行者小舟を拾へて。この巻物となつて入桂之
 助とてつゝ刑二方の口へとなつて出で。けやも不思議ふらふおまじを
 さねやど位牌の法名とて似たる。夏とひひいませ。そのやうに語りたる
 おまじ。又平夫婦お竜も。いづれも其実と知たむひまぬ。忠臣マと轉
 感嘆おなごりけり。あむ右衛門のさひていづく。おん舟お出合。恨の
 ぬ小つらとて死。冥途ふいづとて藤波おのひひつけせんこと。いづこ
 望む所あれども。主君御夫婦御親子の先途とてさかひ。再世お出
 せぬ。おまじをい死おれ。余おれおれ。の問某が命と某おあつておれ
 たる。いとけし。この病願とてさへし。いづ首さうのておん舟おあつる

常言も大丈夫の一言ハ。駒馬も走どどとつり。若は詞小
 露なるもつらつらあべ。立地小天地神明の御罰とつらつら。ど
 恩の恩仇の仇ある。少の恩を以て覚悟の命となつて死所
 存ある。と。詞さひし。いひけし。又平返答の詞いあつ。つと立てた
 と。つとと扱るる。あむ右衛門がたり。編笠とどどと斬て
 仏壇小舟向。いづお波浪汝が敵佐と良三郎が首と。つとのおとくち
 たり。速小恨ぬ。いづお仏果と得。南无阿弥陀仏の。いづおとと
 初南无右衛門小むい。晋の豫讓が例おあつ。今已小妹。仇の仇い
 たる。いづお恨の仇も。は。いづお妻小枝。命を救む。いづお大恩と
 報じ。いづおあり。その恩を報じ。死仕方おか。つと。その紙と押
 ひらけ。一回の。いづお声あり。某おれおれ。いづおあり。委知の。いづ

と同ほろどとゆひつ。立せう人へ乃是別人ふあど。佐々木桂之助国
 知あり。あむ右衛門掾のちまを退けて平伏せぬ。桂之助ゆひ
 へ我倭者の為ふとあらはれ行と乱。汝等が諫言ゆひひを。
 今もつが波浪が非業の死へ畢竟我手紙にじて殺せしも同然あり
 我眼あどあど。誠の忠臣とふる事とあどつて百蟹の巻物を奪し
 も汝が仕業とゆひし。大方誤りなり。今汝が女のがらりとさけん。楓
 が孝行ふら。巻物とりとあ出し。文弥が忠義ありて月若も恙
 ならぬ。なぐひすれりも者どもが不便なるの果とゆひ悲致みせ
 せりぞり。我不行跡ふらて父の勳氣とゆひつ。かく漂泊の才
 とありて今後悔とゆひても更ふゆひる。ゆれちふて耻とのこ
 さん。自殺せらとゆひしこととあむ。なぐひぐちれども。道犬が謀計

館の騒動とあゆふさけ。父うへのめん身のうきづゑ。時節は
 まち。御勳氣のあつとらけそちなり。家とおそろんとあふら。おち
 こち瓜まのびて。むらぐ月日。とあつるが。は家のあじ又平。波浪
 ち急お零落せと憐。深くゆりてゆきまひおらぬ。うらや山三
 郎不破伴左衛門がたぬ父とおとすも。ゆれが僕猿二郎と
 ゆふ者ふあひて。うらぐらぬこのひけぬ。あむ右衛門頭とさげ。ゆひ
 気づいあをばさぬ。某余あむらひ道犬が悪意と乱。一。
 再世のうらぐらとを。桂之助とあむ。ゆひのゆひ
 ぞとひけ。ゆひ折しも空中。一羽の鷹片田お落る。鷹さすて
 椽さぬ。撲地なり。あむ右衛門。膝おちり。再飛んと羽たるとゆひ
 ども。飛るとあむらひ。うらぐらぬ。足お財布とあひつけたるか。足は

こちろそ飛とるこちろとあるさるなり。あむ古街ふるまちのつづり。財布さいふとこたて
 えぬば。うちふおうを百兩ひゃくりやうをりの小判こばん金えんあり。扱まはは金かねのおりさふ
 たんごしておちたるう。朱賓しゆひんが鷹たかハ臆おそみ金銭かねせんと貫つぬれ。蕨武わぶ鷹たかハ
 脚あしふ帛書びやくしよと繫つ系けいたる。たぬいあれずも。かる大金おほきねと鷹たかの足あしふ田いひつけ
 たるハ何なにの由よしあどと一いつ同どうふいぶをとるひぬ。此金このかねのし所ところとまんと安せば
 且下回またしたまわと読得よみえて知しるべし

巻之四終

